

平成30年度 日本大学危機管理学部個人研究費 研究実績報告書

所属： 危機管理学部 危機管理学科

資格： 准教授

氏名： 加納 奈保子

研究課題		19世紀アメリカ女性作家による東洋思想の受容とその影響についての研究
報告の概要	研究目的及び研究概要	平成30年度の個人研究費は、19世紀アメリカ女性作家で超絶主義思想家だったElizabeth Peabodyが、東洋思想、とくにヒンズー教と仏教をどのように受容していったのかを明らかにする研究のために使用した。本研究の背景には、アメリカ文学・思想史のなかで重要な潮目の一つと評価されてきた超絶主義(Transcendentalism)について、新たな側面から再評価する流れがある。これまで、超絶主義は“masculine rhetoric”との批判を受けることがあったが、実はRalph Waldo EmersonやHenry David Thoreauといったハーヴァード大学で教育を受けた男性エリート知識人だけでなく、正規の教育も出版許可も得難い状況にあった女性たちも、この「最初のアメリカ的哲学思想」である超絶主義の醸成に大きな影響を与えていたことが近年注目されつつある。本研究では、こうした海外での再評価の動きを踏まえながら、東洋思想との影響関係を主軸にした独自のアプローチで研究を進めている。とくに本年度は、超絶主義思想に深く関与しながら十分に評価されているとはいえない人物、Elizabeth Peabodyに焦点を当て、彼女の東洋思想の受容を足掛かりに、彼女がどのように超絶主義的思想を涵養し、その先見的な思想を形成するに至ったのかを考察した。
	研究成果	「個人研究費」を用いた本年度の研究成果としては、まず、Elizabeth Peabodyの東洋思想の受容について、日本アメリカ文学会東京支部にて研究発表を行い、有益なコメントを得ることができた。現在、発表原稿を研究論文として彫琢する作業に入っており、次年度に研究成果として挙げていきたい。また、本年度のもう一つの成果として、国際学会The International Poe & Hawthorne Conference 2018にて、前年度からの研究テーマであった日米のユートピア共同体における女性の状況が、文学作品の中でどのように物語られ、当時の規範的な性別役割とは異なるオルタナティブな関係性が描かれているのか否かについて研究発表し、日本だけでなく海外の研究者と意見交換することができた。この研究発表についても、次年度に論文として刊行できるよう鋭意努力する。
研究業績	・論文および著書 著者名・論文標題・雑誌名・査読の有無・巻・発行年・ページ数	なし
	・学会発表等 発表者名・発表標題・学会名・発表年月日・発表場所	①学会発表:Naoko Uchibori, “Transpacific Intertextuality of Utopian Communities: Gender and Sexuality in <i>The Blithedale Romance</i> and Works on Atarashiki-mura (New Village),” The International Poe & Hawthorne Conference, June 22, 2018, Keio University. ②学会発表: 内堀奈保子「Elizabeth Peabodyの超絶主義と東洋思想——“A Vision” (1843)を中心に」、日本アメリカ文学会東京支部11月例会、2018年11月17日、慶応義塾大学
	・その他 *書評、雑誌投稿など *著書名・標題・掲載誌名・発表年月・発行所 *講演会、研究会等での講演・発表 発表者・発表年月・題目名・講演会等名 *社会貢献活動等	①翻訳:内堀奈保子訳「友情およびアメリカ研究と日本研究のクィア化について」、NPO法人WAN女性学ジャーナル (https://wan.or.jp/journal/details/2), 2018年5月19日 (Keith Vincent, “Takemura Kazuko: On Friendship and the Queering of American and Japanese Studies,” Bullock, Julia C., Kano, Ayako, & Welker, James, eds., <i>Rethinking Japanese Feminisms</i> , University of Hawai’i Press, Dec. 2017, pp251-266.) ②社会貢献活動等:第15期千葉県船橋市男女共同参画推進委員会委員(2017年8月3日～2019年3月31日)